

## 道徳部会

< 県研究主題 >

生きる力としての豊かな人間性をはぐくむ道徳教育の指導及び評価の工夫・改善

提案 1

提案者 藤田 真也 (県央地区)

< 研究主題 >

道徳の時間と国語科との関連を意識した授業づくりをめざして

### 1. 提案内容

本校の教育実践は、国語の校内研究に取り組みつつ、常に道徳教育との関わりを意識し、授業の構成・実践に取り組んでいこうという職員の共通理解をしっかりと持ちながら進めてきている。授業実践において「道徳の時間と国語科との関連を具体的に意識した授業づくり」をめざしており、その方策に関して試行錯誤が繰り返されている。

道徳の時間と国語科との関連をめざした授業の作り方を視点としながら、「生きる力としての豊かな人間性をはぐくむ道徳教育の指導及び評価の工夫・改善」に迫りたい。

#### (1) 研究の仮説

##### ① 国語科の中で見出した道徳的価値を補充・深化・統合させる道徳の時間

国語科の教材から見出した道徳的価値を道徳の時間で密に、計画的・発展的に扱うことで国語科の中では行えなかった道徳の指導を補い、道徳的価値を深く自覚させることができるのではないかと。(補充・深化・統合)

##### ② 言語活動、言語環境の視点から見た道徳の時間と国語科との関連

A 国語科の各領域で身に付けた基礎的な知識・技能を言語活動として授業の中で生かすことで道徳的価値についての自覚を深めたり、問題意識を持つことができるのではないかと。(言語活動の充実)

B 道徳の時間において言語活動の整備を行うことで、国語科での言語活動を充実させることができるのではないかと。(言語活動の整備)

#### (2) 授業実践から

【主 題】 みんな違うことから生まれる楽しさ 正直・誠実、明朗 1 - (4)

【資料名】 「しって いる？」(教育出版)

【ねらい】 人と違うという自分に改めて気づき、自分自身を誠実に見つめることができる心情を養う。

##### 国語科との関連

教科書；「光村図書 小学校国語 二上たんぽぽ」

『書くことをきめて、しらせよう (今週のニュース)』、『読んでわかったことをまとめよう (たんぽぽのちえ)』の単元での学習と関連させる。

① 自分と友だちの文章や考えの違いから児童が見出した、「人と違う自分」をもとにして本時の道徳的価値の補充・深化・統合を行う。

② 「理由づけを表す言葉」の学習を生かして発表することで、道徳的価値に対する自分の考えや思いを適切に表現する。

③ 書くための資料として扱った「思ったことやかんじたことをあらわすことば」を用いて発表することを意識づける。

④ 日頃から国語科で継続的に指導している「話すことに関する指導事項」についても意識し、自分の考えや思いを適切に表現できるように支援する。

### (3) 研究の検証

#### 【仮説①について】

- 道徳の時間を、より根拠をもった計画で進められた。(成果1)
- 児童が自分のこととして取り組む姿勢が見られた。(成果2)
- 道徳の時間の流れに適した国語科の位置づけが必要。(課題)

#### 【仮説②について】

→A について

- 国語科で培った言語能力が、道徳的価値に迫るための足がかりとなった。(成果)
- 児童の思考の流れに適した発問の検討が大事。(課題)

→B について

- 年間を通した言語環境の整備が必要。(考察)
- 道徳の時間における教師の受容的姿勢の必要性がある。(考察)

## 2. 協議内容

### 《授業について》

○ 子どもたちの授業の姿勢がきちんとしていた。先生の態度も、意見が子どもたちから出てくるように意識していた。2年生の5月という段階でこのような様子だったのは先生の工夫の成果だと感じた。

### 《全体計画・別葉について》

- 別葉は、全体計画の各学年の重点目標をもとに部会で話し合い、学校の実情に合わせて作成した。
- 別葉という形で、他教科との関連を意識して道徳教育を進めることは大切。

### 《国語科と道徳の時間との関連について》

- 国語は、言語能力を身につける時間として、道徳の時間は、道徳的価値に気付く自分のこととして振り返るきっかけの時間として考えた。
- 国語での授業について想起させたい場合、関連する資料を視覚的に提示したりはつきりと言って伝えることもある。
- 道徳の時間には読み物資料も多く、聞くこと・書くこと・発表することなどの要素が含まれているので、国語科を生かすことができる。

## 3. まとめ

- 普段、道徳の時間と各教科との関連を意識して取り組もうとする機会はありませんか。先生が意識するかしないかというのは、次にどう取り組むのか、子どもをどう見取っていくのかということに関わる。今回、言語活動を子どもたちの見取りのツールとして用いたことはヒントになる。
- 別葉は、全項目を取り入れて作成することが大切。形式はいろいろある。作ったら、振り返ることも大切。今回の提案によって気付くことができた。
- 国語と道徳の時間は、目標が違う。道徳の時間は、心情を自分と照らし合わせて考えることが中心。
- 別葉から道徳の時間がどうかかわっているか考えることも大切。見取りの方法はいくつもある。相互にどう関連しているか考える。

## &lt;研究主題&gt;

「しっかり教え、しっかり引き出す指導」の充実を図る教材開発と授業実践

## 1 提案内容

横浜市では平成22年度までに「横浜版学習指導要領」等を策定し、学習指導理念「しっかり教え、しっかり引き出す指導」やそのための授業改善の3つの視点「授業を変える」「授業をつなげる」「授業を高める」等を示した。そして、平成24年度から「しっかり教え、しっかり引き出す指導」の充実を図る「授業づくり」のために、「道徳の時間の読み物資料及び映像」の開発を行ってきた。

また、横浜が目指す子どもの姿「知」「徳」「体」「公」「開」のうち、特に「公」「開」を育む資料を中心に開発し、道徳の時間の学習を子どもが自分の問題としてとらえ、主体的に考えを深めることができるような指導過程を大切にした授業実践を行ってきた。

## (1) 研究実践

授業実践 6年生 主題名 4-(4)社会のために 自作資料「自分にできることは」  
(横浜市教育課程研究委員会道徳専門部会作)

- ・実話をもとに資料を作成し、児童が価値をつかめるように工夫した。
- ・身近な人の話や道徳の資料などを通して、社会に奉仕したいいろいろな人々の姿を見つめ、自分のこととして考えられるように学習の総合化を図った。
- ・社会のために奉仕することについて考えさせ、少しでも視野を広く、社会に目を向けさせていき、何かをしたいという心情を育てることを目標とした。

## (2) 自作資料について

社会に対して働くことの大切さを6年生のこの時期にとらえさせたいと考えた。また、人知れず社会奉仕している人のいることや、それによって社会が変わっていくこと、何よりもそうすることで自分自身が喜びを得られることを描いた資料を作成することに留意した。

## (2) 成果と課題

- ・学校で起こったことを資料としたことで、児童は身近なこととして考えることができた。授業後の「なんでもノート」では、日々のおまけ仕事について喜びを見出したり、社会や世界へと視野を広げたりした児童もいた。
- ・この資料では、河原の清掃を認めてくれる通行人親子が登場するが、他の人に認められる場面を設定せず、誰も見ていなくても、誰かにほめられなくても、人のためになる仕事は尊いという事を強調するような資料と授業展開も考えられる。
- ・この資料は本校で起こった感動的な出来事をもとに作成したが、実際の出来事は道徳のいろいろな価値項目を含んでいる。よって、自然愛護の授業になってしまわないように本時目標を教師がしっかりつかんで授業に臨む必要があり、本時では児童の発言をうまく軌道修正できた。
- ・勤労奉仕について社会奉仕にまで目を向けてほしかったが、学級内の活動や感想にとどまる児童が居た。広い視野をもって社会に対しての奉仕活動に気づき考えさせるために、複数の登場人物それぞれの思いや願いを語らせてもよかったのではないか。

## 2 協議内容

## (1) 自作資料について

## ①資料開発のポイント

- ・事実の有無や人権について配慮する。取材が大事。
  - ・学級の出来事などの場合、個人が特定されないように注意する。
  - ・文学として優れていても道徳的価値が含まれていないと資料としては使えない。
- 学習指導要領に解説されている、道徳の時間に用いられる教材の具備すべき要件として、「人間尊重の精神にかなうもの」などいくつか示されており、児童が道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深められるような教材開発を目指している。

#### ②映像の使用について

- ・美しい映像を50インチテレビでスライドショーにしたことがある。
- ・例えば、自然愛護の授業の時に、羽化に失敗した蝶の映像を見せた。羽がないのに動こうとしている蝶の力強い様子は、児童の心に訴えかけるものがあった。

#### (2) 年間の指導計画について

本実践の4-(4)社会のために「自分にできることは」を年間のベースとして、1-(2)夢をもって努力「伊能忠敬」、2-(4)生命尊重で震災についての資料を扱い、実際にボランティア活動をしている方に奉仕活動の体験を聴くことによって刺激を受け、憧れを持ち、ひいては社会のために働きたいという心情を育てることを年間の指導の重点とした。

#### (3) おまけ仕事について

「高学年ではおまけの心が大事である」と授業者が先輩の教師から聞いた。自分の仕事以外にも、あともう少し仕事をする気持ちが大事ということ。6年生の話し合いの中で、担任である授業者が児童に提示した。呼び方に特にこだわりはなく、クラスによって呼び方も異なり、「ちょこっと仕事」と呼んでいるクラスもある。

### 3 まとめ

#### (1) 教材開発について

教材には事実が書かれているだけではなく、児童が感動する内容であるかどうか、教師が教材としてふさわしい内容の条件をしっかりとっておくことが大切である。例えばこの資料の作成にあたっては、取材、事実確認、映像編集などを部会で検討を重ねた。

また、内容項目4-(4)から外れないように意識して作成した。文章の構成についても「遊歩道」→「ウサギの世話」→「遊歩道」とし、日常の体験と道徳の時間とが児童にとって結びつけやすいものとなっている。例えば、この文章の中の「風」をシンボルとして、えみの心情を表すこともできるであろう。

このように、地域性や学級の実態を考えながら、充実した道徳の時間にするための教材開発をし、地道に貯金をしているところである。今後は、郷土資料についても情報交換していきたいと考えている。

#### (2) 授業実践について

授業が大切である。学習指導過程、授業の流れを重視した。展開後半の児童の「ふり返り」を大切にしたい。今回の実践では、学習の総合化として学習を広げることができなかったが、「なんでもノート」に児童は考えや日常生活での実践について書いていた。

また授業は小・中の連動性も考えることが大切である。低・中・高学年の指導をつなげていくことで、例えば今回の内容は中学校のキャリア教育につながっていくと考えられる。